



尾崎裕哉 チャレンジの塊となった1st EPを手 真の姿が解放される初のツアーに挑む

父親は伝説のロックシンガーであり、これまでも自ずと注目を集めてきた尾崎裕哉がついに本格的なアーティスト活動を始動させた。3月22日に世に出る1st EP『LET FREEDOM RING』を前に2月26日からは初のツアー【LET FREEDOM RING TOUR 2017】がスタート。その声、容姿に尾崎豊の遺伝子を引き継ぎつつ、無限の可能性を秘めた音楽と共に今を生きるシンガーソングライターとしての意識とは？ 自ら「ライブ・アーティスト」と宣言する彼の実像にぜひ生で触れてほしい。

——裕哉さんの一番のルーツはお父様(尾崎豊)だと思いますが、現在はどんな意識で音楽をされていますか？

「僕はあくまでもポップスをやっているんですよ。尾崎豊もポップスで、尖った部分もあったかもしれないけど万人に届くような曲をやっていたし。母親と一緒に聴いてた宇多田ヒカルさんとかaikoさんのようなものもルーツとしてあるんだけど、その後、AC/DCと出会って音楽の世界がすごく広がって行って、ジョン・メイヤーとかエド・シーランにも出会いました。今聴いている音楽も洋楽がメインで、そこからのインスピレーションも大きいですね」。

——ちなみに、曲作りはいつから？

「20歳になってようやく曲を書き始めました。最初はギターとマイクひとつで作っていて、次にパソコンである程度作るようになり、アレンジやミックスのことも考え始めました。そこからトラックメーカー的な発想も曲の中に取り入れていく

ようになったんですけど、一番基本となるギターで曲を作るっていうところはブレてないです」。

——3月22日にリリースされる1st EP『LET FREEDOM RING』の1曲目『サムデイ・スマイル』にはラップも入っていて驚きました。

「このEPは本当にチャレンジの塊ですね。最初、ラップの部分はちょっと語りっぽい感じだったんですよ。父親の曲で『ドーナツショップ』の最後に入ってる語りに近いようなイメージで。でも、ちょっと尾崎感が強すぎるかなってことで、ラップっていうアイデアが出てきて…。僕はラップしたことがなかったので、できるかな？と思ったんですけど、チャレンジしてみようと思ったんです」。

——サウンドプロデューサーの薦谷好位置さんたちと一緒に制作していく中で、裕哉さん自身も新しい自分を発見していったんですね？

「このEPの位置付けはあくまでも自己紹介であり、自分を少しずつ解放していくということなんです。僕の中ではロックもレゲエもヒップホップも全部含んでるんですよ。だからこの4曲って割といろんなスタイルの音楽が混在してるんじゃないかな。それを日本的なJ-POPのメロディーと合うようにうまくまとめられたのは薦谷さんのおかげです。音楽って無限の可能性があるんだなって、だからこそ音楽でずっと続けていけるんだろうなって思いました」。

——『27』という曲は実際に裕哉さんが27歳になってから書かれた曲ですか？

「はい。なぜ“27”かというと、父親の年齢を超えたっていう意味で大事な歳なんです。その前の、

“26”っていう数字が尾崎家にとって意味がある数字で。父親が亡くなった歳であり、母親が僕と一緒に渡米した歳もそうだし、僕がデビューした歳も26歳でした。そして、父親の年齢を超えて27歳になった時に決意して書いた曲です。たとえどうなっても、結果は自分自身の責任だと思ってるし、自分次第で周りも変えられるから、突っ走って行くんだ！って」。

——今回収録されている4曲の中では、この『27』が一番ご自身に向けての歌なのかなと感じました。

「まさしくそうですね。いざ、読み返してみるとちょっとこっぴどい感じもあるんですけど。割と思いのまま書いた自分を鼓舞する曲かな…。もともと【FREEDOM aozora 2016】っていう淡路島で行われたフェスに向けて書いた曲で、大声で自分のことを歌うっていうのがこの曲のテーマだったんです」。

——自分にとっての決意の歌であり、“アーティスト・尾崎裕哉”として、生きていくことを宣言するような歌だったと？

「そうですね。『27』は、【FREEDOM aozora 2016】で2~3万人っていう今までで一番多いお客さんの前で歌ったし、同時にドキュメンタリー(NHK BS プレミアム)のカメラも回ったので。サウンド的には、(尾崎豊の)『十七歳の地図』のような雰囲気がありつつ、それをもっと今風に解釈したようなものになりましたね」。

——収録曲の中で一番古い曲は、『始まりの街』ですか？

「そうですね、2015年の秋頃ですね。『サムデイ・スマイル』と『Stay by my Side』は今回のEPのために作った曲で、去年の冬頃に書きました」。

——先に配信されたDigital 1st Single『始まりの街』はストリングスが入ったアレンジでしたが、今回はイントロからギターが印象的で、より生音の温かみがあるサウンドに仕上がってますね。

「今回のEPに入ってるギターは全部僕が弾きました。『始まりの街』ってライブでは弾き語りでしたかやることがないので、今回のツアーではバンドでできる『始まりの街』が完成してすごくよかったと思います」。

——このEPに伴う初のツアー【LET FREEDOM RING TOUR 2017】で、裕哉さんの生のステージを観るのを楽しみにしているファンも多いと思います。

「ずっと弾き語りでやるが多かったのですが、今回のツアーはバンドでできるということで、僕もすごく楽しみです。僕はレコーディング・アーティストというより、ライブ・アーティストだと思っているし、自分が本当に出したって思っているものに近い形で表現できると思います。初めて僕を見る人も結構多いと思うので、自分が悩んできたことや考えてきたことも含めて、こういう人間なんだっていうのをきっちり伝えられたらいいなと思います。と同時に、ライブはエンターテインメントでもあるので、僕のパフォーマンスを見てカッコイイと思って、楽しんでもらえるようにがんばりたいですね！」。



1st EP
『LET FREEDOM RING』
3.22 out!!

★ HIROYA OZAKI "LET FREEDOM RING TOUR 2017"
3月2日(木) 大阪 BIGCAT